

青少年を伸ばそう



—子どもたちの心の中に育つ「美しい灯」をおおらかにほぐくもう—

今日の青少年をめぐる諸問題の派生要因として、戦後のモラルの崩壊、日本経済の急激な成長による地域間や企業間の格差拡大などこれらのヒズミが考えられる。青少年問題は複雑で困難なものとしてきた。

しかし、もはやこの問題は、青少年だけのものではなく、むしろおとなや、社会全体の課題としてみんなが力をあわせて解決に努力しなければならないことを新たに認識する必要があるのではないだろうか。

昭和四十一年十一月青少年育成県民会議が結成された。この会議には青少年問題に関係のある県下のあらゆる団体や機関が結集され、おとなと青少年が共通の場でもとに理解しあい、手をつないで進んでいこうという決意のもとに組織的な運動がいろいろと展開されている。

本号ではこうした問題をふくめて、当面する青少年問題のいくつかにふれてみることにした。

青少年の顔が生きて輝き、はつらつとしている社会は、伸びる社会でありその反対に暗いじめ顔の青少年の多い社会は、沈滞した社会であるといえよう。

心身に欠陥をもった児童には、その状況に応じた対策を講じて、社会の一員として役立つように育てられなければならない。

肢体不自由児、精神薄弱児、盲聾啞児重症心身障害児など不幸な児童に対する対策もさらに前進したものにしなければならぬが、そのためには、社会一般の人々の認識と理解が一層深まってこそ、はじめて実質的な進歩がもたらされるものといえよう。

青少年問題は、家庭教育、学校教育、児童福祉、社会教育、職場の雇用主と従

業員、司法関係それぞれの場における方々だけがいくら頑張っても、それでうまくいくというものではない。各々が密接な連けを保ち、一貫した施策を講ずることこそ、その効果を相乗的に高めることができるのである。

郷土の発展になう青少年

現在の青少年問題を考える場合、まず青少年を取り巻く社会状況の中で人口動勢はどうかという点から考えなければならぬ。

まず第一に、死亡率と出生率がともに低下していること。ことに出生率は、戦後のベビーブーム時には、人口千人に対して三四―三五の高率を示していたのが

急速に低下し、昭和三十七年には一四・九となり、昭和四十一年には、一一・五となっている。

そしてこのような死亡率及び出生率の低下によって、年齢別の構成が変化し、青少年人口が減少し、老年人口と壮年人口が増加し、人口構成が老齢化している。第二に、昭和三十年頃を契機として、経済が急激に発展し、産業人口の流動が激しくなり、農山漁村から都市へ向かっての人口流出が続く、特に若い労働力の都市流出が中心であるため、農山漁村の過疎老齢化が拍車をかけて進行し、一方では、都市における若い年齢層の過密化現象が起きているということ。

以上二つのことは、今日の青少年問題を考えるうえで最も基本的事柄だといえる。つまり、少なく生まれる青少年が、今後ますます多くなる年齢層を養っていかねばならないわけで、その少ない青少年を将来の社会になう中核的な働き手として成長させることは、将来の社会を維持し、発展させるうえで、不可欠の条件となるということである。

また、農山漁村の若年労働力の極端な不足、都市における労働力の確保対策をどうするかという問題は、自由経済下の日本が国際競争力に耐えて発展するためのキイポイントであるといえよう。

複雑多岐な青少年問題

青少年を次代の国家の手に手として健全に育成することは、古くて新しい問題であるが、ますます複雑化していく現代社会においては、青少年の健全育成という問題もおのずから複雑多岐にわたってきている。

いうまでもなく青少年は、それぞれの家庭、地域、社会環境の中で育てられ、それらの影響を受けながら人格を形成していくのであるから、逆に見れば、今日発生してきている青少年問題は、現代社会の持っている問題点の、投影であるといえるのである。

青少年対策は

家庭と社会が一体で

青少年の人格形成において重要な役割を果す家庭の機能が、核家族に伴って弱まってきているのも見逃せない事実であり、ここに「家庭の日」を通して、家庭の役割を再認識する意義があるし、地域の連帯感を強め、郷土愛を培うための子ども会、児童館活動の重要性があり、都会における中小企業に働く青少年のための青年学級、農村青少年団の活動、4Hクラブの活動の重要性もまた、家庭―地域社会―市町村―県―国とつながる一貫した青少年対策の重要な一つの環を構成するものである。

指導者不在

岩野 徹

ポリースカウト日本連盟初代総長後藤新平はよく「人間をつくらせて遊く人は最上、仕事をのこして遊く人はその次。金を残して遊く人は下である」と言われたそうだが、なかなか味のある言葉である。

先日私の団で指導者を募集したところ、二人の学生がやって来たが話の途中で「大体一カ月と幾らぐらいい頂けますか」と私に尋ねた。そこでわれわれ青少年団体指導者は子どもの社会教育のために自分の余暇と能力を奉仕するのであってアルバイトではないと説明してやる

と、感心した顔で帰って行ったがそれっきりだった。われわれ青少年団体の伸び悩みの原因は指導者不足である。有近のレジャー産業は大いに余暇利用に役立っているようだが、どうも青少年の

活動のために余暇を費すことは最近流行らないらしい。われわれの仲間に「スカキチ」という言葉がある。スカウトきちがいと言うのをちぢめたものであるが、確かにたまの休日にゆつくりしたところを子ども達の集会に出かけるなどは気遣いの部類に属するのかもしれない。しかし子ども達に聞かれてその成長を来しむ偉大な馬鹿がもつと出て欲しい。何故ならばそういう指導者を待ちあ

ぐんでいる。一国の興隆は青少年が左右すると言われるがその鍵は指導者が握っている。国や県で如何に青少年の健全育成を叫んだとて又、われわれが如何に青少年団体の意義を力んで話したところで肝心の指導者不在ではどうにもならない。悩み又反省しているところである。(ポリースカウト熊本県連盟 事務局次長)